

授業科目	健康科学演習 Seminar in Health Science			担当教員	野村 秀一		
展開方法	演習	単位数	4 単位	開講年次・時期	1～2 年／通年	必修・選択	選択
授 業 の ね ら い							
健康科学が包括する領域は広く、公衆衛生学、解剖学、生理学、生化学、微生物学、環境化学など多くの分野に及んでいる。そこで本演習では、遺伝要因や環境要因、ライフスタイル、生体指標（尿・血液生化学検査値、体脂肪率や骨密度等）などと健康の関連について、学生が特定のテーマを選択し、そのテーマに関する文献を精読して内容を論議しながら文献に対する批判・検討能力を養う。これに加えて、統計学的手法や解析手法を自ら修得させながら、「特別研究」の質を向上させるように指導を行う。 本演習のうち、人の健康状態に及ぼす微生物の影響をテーマにして演習を行い、自分の研究テーマで研究論文が作成できるようになることである。							
	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標				評価手段・方法		評価比率
関心・意欲 ・態度	研究テーマについて関心と探究心を持ち、研究に取り組むことができる。				・ディスカッション		20%
思考・判断	研究テーマに関連する論文（欧文・和文）を理解し、研究テーマに活かすことができる。				・中間レポート		30%
技能・表現	欧文の論文を和訳し、その内容を理解できる。研究論文を和文で作成できる。				・ディスカッション		20%
知識・理解	研究テーマを遂行するのに必要な専門的知識と技能を修得し、関連付けることができる。				・論文抄読		30%
出 席							受験要件
合 計							100%
評価基準および評価手段・方法の補足説明							
・ディスカッション（40%）、中間レポート（30%）、論文抄読（30%）の割合で評価する。 ・ディスカッションは、微生物学、生化学、食品衛生学、統計学的手法や解析手法などでの自分の研究テーマに対するディスカッション内容で評価する。 ・中間レポートは、まとめ方と一年生の終わりに行われる中間発表会での発表内容で評価する。							
授 業 の 概 要							
人の健康に及ぼす微生物に関する文献、実例を取り上げて、それぞれのテーマに対して、自分で勉強し、検討したことを発表し、さらに全員で討論し、批判・検討能力を養うように演習を実施する。 自分の研究テーマを遂行し、まとめ・論文作成ができるように行う。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：特に指定はしない。自分で必要と考える専門書を選定すること。 参考書：特にないは、自分の研究テーマに関係する学術論文(和文・欧文)							
授業外における学修及び学生に期待すること							
将来、自分自身で研究課題を持ち、研究していくために必要となる研究論文の読解能力、調査能力、討議能力、発表能力などを養うように、自主的に探究心をもって日々学修に励んで下さい。 研究テーマでの学会発表、学術雑誌への投稿ができるように研鑽を積んで下さい。 自分の研究テーマに必要な論文等の検索ができるようになって下さい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1・2	導入	演習の進め方について、オリエンテーションを行う	各自理解を深めたいテーマを検討しておく
3・4	中間レポート作成準備	中間レポートについての説明	各自理解を深めたいテーマについての情報収集を行う。
5・6	中間レポート作成準備	各自の仮テーマの確定	情報収集と立案
7・8	中間レポート作成準備	草稿報告	各過程の進捗に合わせて、適宜、必要な文献、資料、データを準備する。
9・10	中間レポート作成準備	草稿報告	
11・12	中間レポート作成準備	草稿報告	
13・14	中間レポート作成準備	草稿報告	
15・16	中間レポート作成準備	草稿報告	
17・18	中間レポート返却	草案の訂正	返却レポートの確認・修正
19・20	中間レポート作成準備	テーマ修正	各過程の進捗に合わせて、適宜、必要な文献、資料、データを準備する。
21・22	中間レポート作成準備	文献検索指導	
23・24	中間レポート作成準備	文献検索指導	
25・26	中間レポート作成準備	参考文献指導	
27・28	中間レポート作成準備	参考文献指導	
29・30	1年まとめ	中間報告（まとめ）	1年次の内容をまとめる
31・32	導入	修士論文提出スケジュールの確認	スケジュールを立てておく
33・34	修士論文作成準備	草稿報告	中間レポート作成で不足していたデータ、資料を収集し、関連する文献を検索する
35・36	修士論文作成準備	草稿報告	
37・38	修士論文作成準備	草稿報告	
39・40	修士論文作成準備	草稿報告	
41・42	修士論文作成準備	草稿報告	
43・44	修士論文作成準備	草稿報告	
45・46	修士論文作成準備	草稿報告	
47・48	修士論文作成準備	草稿報告	返却修士論文の修正
49・50	修士論文作成準備	形式確認	
51・52	修士論文返却	修士論文の修正	
53・54	修士論文発表準備	発表準備	修士論文の発表準備
55・56	修士論文発表準備	発表準備	
57・58	修士論文発表	プレゼンテーション・質疑応答	
59・60	2年まとめ	総まとめ	総まとめ

授業科目	健康科学演習 Seminar in Health Science			担当教員	佐々木 裕		
展開方法	演習	単位数	4 単位	開講年次・時期	1～2 年／通年	必修・選択	選択
授 業 の ね ら い							
健康科学が包括する領域は広く、公衆衛生学、解剖学、生理学、生化学、微生物学、環境化学など多くの分野に及んでいる。そこで本演習では、遺伝要因や環境要因、ライフスタイル、生体指標（血液生化学検査値、尿検査、体脂肪率、骨密度等）などと健康の関連について、学生が特定のテーマを選択し、そのテーマに関する文献を精読して内容を論議しながら文献に対する批判・検討能力を養うことである。これに加えて、統計学的手法や解析手法を自ら修得させながら、「特別研究」の質を向上させるように指導を行う。							
	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標				評価手段・方法		評価比率
関心・意欲 ・態度	公衆衛生学、解剖学、生理学、生化学、微生物学、環境化学など多くの分野に関心を持ち、意欲的に取り組むことができる。				・ディスカッション		20%
思考・判断	遺伝要因や環境要因、ライフスタイル、生体指標（尿・血液生化学検査値、体脂肪率や骨密度等）などと健康の関連について、科学的に思考することができる。				・中間レポート		35%
技能・表現	統計学的手法や解析手法を修得できる。				・ディスカッション		20%
知識・理解	文献を精読して内容を論議しながら文献に対する批判・検討することができる。				・論文抄読		25%
出 席							受験要件
合 計							100%
評価基準および評価手段・方法の補足説明							
・ディスカッション（40%）、中間レポート（35%）、論文抄読（25%）の割合で評価する。 ・ディスカッションは、公衆衛生学、解剖学、生理学、生化学、微生物学、環境化学、統計学的手法や解析手法など多くの分野についてディスカッションし評価する。中間レポートは、その準備と一年生の終わりに行われる中間発表で評価する。論文抄読は、発表の正確性とディスカッションで評価する。							
授 業 の 概 要							
それぞれのテーマに対して、学生が自ら勉強し、関連した文献を精読し、検討したことを発表する。その発表内容について討論し、批判・検討能力を養うように演習する。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：特に指定しない 参考書：抄読のための論文を配布する							
授業外における学修及び学生に期待すること							
1. 各授業の最後に資料を配布し次回の講義テーマを伝えるので、専門用語の意味を理解しておくこと。 2. 各自が選んだテーマに沿ったディスカッションを行うので、よく調べておくこと。 3. 欠席6回で再履修となる。また、特別な事情を除き無許可での途中退席は不可とする。							

回	テーマ	授 業 の 内 容	予習・復習
1・2	導入	演習の進め方について、オリエンテーションを行う	各自理解を深めたいテーマを検討しておく
3・4	中間レポート作成準備	中間レポートについての説明	各自理解を深めたいテーマについての情報収集を行う。
5・6	中間レポート作成準備	各自の仮テーマの確定	情報収集と立案
7・8	中間レポート作成準備	草稿報告	各過程の進捗に合わせて、適宜、必要な文献、資料、データを準備する。
9・10	中間レポート作成準備	草稿報告	
11・12	中間レポート作成準備	草稿報告	
13・14	中間レポート作成準備	草稿報告	
15・16	中間レポート作成準備	草稿報告	
17・18	中間レポート返却	草案の訂正	返却レポートの確認・修正
19・20	中間レポート作成準備	テーマ修正	各過程の進捗に合わせて、適宜、必要な文献、資料、データを準備する。
21・22	中間レポート作成準備	文献検索指導	
23・24	中間レポート作成準備	文献検索指導	
25・26	中間レポート作成準備	参考文献指導	
27・28	中間レポート作成準備	参考文献指導	
29・30	1年まとめ	中間報告（まとめ）	1年次の内容をまとめる
31・32	導入	修士論文提出スケジュールの確認	スケジュールを立てておく
33・34	修士論文作成準備	草稿報告	中間レポート作成で不足していたデータ、資料を収集し、関連する文献を検索する
35・36	修士論文作成準備	草稿報告	
37・38	修士論文作成準備	草稿報告	
39・40	修士論文作成準備	草稿報告	
41・42	修士論文作成準備	草稿報告	
43・44	修士論文作成準備	草稿報告	
45・46	修士論文作成準備	草稿報告	
47・48	修士論文作成準備	草稿報告	返却修士論文の修正
49・50	修士論文作成準備	形式確認	
51・52	修士論文返却	修士論文の修正	
53・54	修士論文発表準備	発表準備	修士論文の発表準備
55・56	修士論文発表準備	発表準備	
57・58	修士論文発表	プレゼンテーション・質疑応答	
59・60	2年まとめ	総まとめ	総まとめ

授業科目	健康科学演習 Seminar in Health Science			担当教員	熊井 まどか		
展開方法	演習	単位数	4 単位	開講年次・時期	1～2 年／通年	必修・選択	選択
授 業 の ね ら い							
健康科学が包括する領域は広く、公衆衛生学、解剖学、生理学、生化学、微生物学、環境化学など多くの分野に及んでいる。そこで本演習では、遺伝要因や環境要因、ライフスタイル、生体指標（尿・血液生化学検査値、体脂肪率や骨密度等）などと健康の関連について、学生が特定のテーマを選択し、そのテーマに関する文献を精読して内容を論議しながら文献に対する批判・検討能力を養う。これに加えて、統計学的手法や解析手法を修得し、「特別研究」の質が向上することを目標とする。							
	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標				評価手段・方法		評価比率
関心・意欲 ・態度	関連領域に関心を持つ。 自主的・積極的に学修に取り組むことができる。				・ディスカッション		20%
思考・判断	英文図書や科学論文を読解できる。 文献を引用し、考察できる。				・レポート		20%
技能・表現	実験結果をまとめることができる。 わかりやすいプレゼンテーションができる。				・ディスカッション ・プレゼンテーション		20% 10%
知識・理解	研究内容を理解し、説明できる。				・論文抄読 ・プレゼンテーション		20% 10%
出 席							単位取得要件
合 計							100%
評価基準および評価手段・方法の補足説明							
ディスカッション（40%）、プレゼンテーション（20%）、レポート（20%）、論文抄読（20%）を総合的に評価する。 レポートは、個別にディスカッションを行い、フィードバックする。							
授 業 の 概 要							
関連領域の文献を精読し、その内容を発表する。質疑応答、討論を通じて理解を深める。 情報収集の方法や実験方法、実験結果のまとめ方等についても演習する。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：必要に応じて、資料を配布する。 参考書：適宜紹介する。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
「特別研究」で活用できる知識を習得するため、自主的・積極的に学修に取り組んでほしい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習・復習
1・2	導入	演習の進め方について、オリエンテーションを行う	各自理解を深めたいテーマを検討しておく
3・4	中間レポート作成準備	中間レポートについての説明	各自理解を深めたいテーマについての情報収集を行う。
5・6	中間レポート作成準備	各自の仮テーマの確定	情報収集と立案
7・8	中間レポート作成準備	草稿報告	各過程の進捗に合わせて、適宜、必要な文献、資料、データを準備する。
9・10	中間レポート作成準備	草稿報告	
11・12	中間レポート作成準備	草稿報告	
13・14	中間レポート作成準備	草稿報告	
15・16	中間レポート作成準備	草稿報告	
17・18	中間レポート返却	草案の訂正	返却レポートの確認・修正
19・20	中間レポート作成準備	テーマ修正	各過程の進捗に合わせて、適宜、必要な文献、資料、データを準備する。
21・22	中間レポート作成準備	文献検索指導	
23・24	中間レポート作成準備	文献検索指導	
25・26	中間レポート作成準備	参考文献指導	
27・28	中間レポート作成準備	参考文献指導	
29・30	1年まとめ	中間報告（まとめ）	1年次の内容をまとめる
31・32	導入	修士論文提出スケジュールの確認	スケジュールを立てておく
33・34	修士論文作成準備	草稿報告	中間レポート作成で不足していたデータ、資料を収集し、関連する文献を検索する
35・36	修士論文作成準備	草稿報告	
37・38	修士論文作成準備	草稿報告	
39・40	修士論文作成準備	草稿報告	
41・42	修士論文作成準備	草稿報告	
43・44	修士論文作成準備	草稿報告	
45・46	修士論文作成準備	草稿報告	
47・48	修士論文作成準備	草稿報告	返却修士論文の修正
49・50	修士論文作成準備	形式確認	
51・52	修士論文返却	修士論文の修正	
53・54	修士論文発表準備	発表準備	修士論文の発表準備
55・56	修士論文発表準備	発表準備	
57・58	修士論文発表	プレゼンテーション・質疑応答	
59・60	2年まとめ	総まとめ	総まとめ

授業科目	健康科学演習 Seminar in Health Science			担当教員	吉村 亮二		
展開方法	演習	単位数	4 単位	開講年次・時期	1～2 年／通年	必修・選択	選択
授 業 の ね ら い							
健康科学が包括する領域は広く、公衆衛生学、解剖学、生理学、生化学、微生物学、環境化学など多くの分野に及んでいる。そこで本演習では、遺伝要因や環境要因、ライフスタイル、生体指標（尿・血液生化学検査値、体脂肪率や骨密度等）などと健康の関連について、学生が特定のテーマを選択し、そのテーマに関する文献を精読して内容を論議しながら文献に対する批判・検討能力を養う。これに加えて、統計学的手法や解析手法を自ら修得させながら、「特別研究」の質を向上させるように指導を行う。							
	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標			評価手段・方法		評価比率	
関心・意欲 ・態度	研究テーマ遂行のために必要となる知識について関心と探究心を持ち、積極的に修得できる。			・ディスカッション		10%	
				・中間レポート		10%	
思考・判断	研究テーマ遂行のために必要と考えられる論文を選定し、その内容を理論的、批判的に読解することができる。			・ディスカッション		10%	
				・プレゼンテーション		10%	
				・中間レポート		10%	
技能・表現	自身の研究内容や欧文の論文を理解し、プレゼンテーションできる。研究内容を発表できる。			・プレゼンテーション		10%	
				・中間レポート		10%	
知識・理解	研究テーマを遂行するのに必要な専門的知識と技能を修得し、関連付けることができる。			・ディスカッション		10%	
				・中間レポート		20%	
出 席							受験要件
合 計							100%
評価基準および評価手段・方法の補足説明							
・ディスカッション（30%）、プレゼンテーション（20%）、中間レポート（50%）の割合で総合的に評価する。 ・ディスカッション、プレゼンテーションは、分子栄養学、生化学、統計学的手法や解析手法などでの自分の研究テーマに対するディスカッションやプレゼンテーションの内容で評価する。 ・中間レポートは、その準備と一年生の終わりに行われる中間発表で評価する。							
授 業 の 概 要							
論文抄読会において研究テーマに関連する論文をプレゼンテーションし、ディスカッションする。また、研究テーマの実験方法や研究結果解釈などについてディスカッションする。日々の研究活動の結果を中間レポートとして中間発表する。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：特に指定はしない。自分で必要と考える専門書・総説・論文(和文・欧文)を選定すること。 参考書：特に指定はしない。自分で必要と考える専門書・総説・論文(和文・欧文)を選定すること。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
将来、研究課題設定、文献調査、実験、論文発表と一人でも研究活動が行えるように各自で考え、必要と思われる能力を積極的に身に付けてほしい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習・復習
1・2	導入	演習の進め方について、オリエンテーションを行う	各自理解を深めたいテーマを検討しておく
3・4	中間レポート作成準備	中間レポートについての説明	各自理解を深めたいテーマについての情報収集を行う。
5・6	中間レポート作成準備	各自の仮テーマの確定	情報収集と立案
7・8	中間レポート作成準備	草稿報告	各過程の進捗に合わせて、適宜、必要な文献、資料、データを準備する。
9・10	中間レポート作成準備	草稿報告	
11・12	中間レポート作成準備	草稿報告	
13・14	中間レポート作成準備	草稿報告	
15・16	中間レポート作成準備	草稿報告	
17・18	中間レポート返却	草案の訂正	返却レポートの確認・修正
19・20	中間レポート作成準備	テーマ修正	各過程の進捗に合わせて、適宜、必要な文献、資料、データを準備する。
21・22	中間レポート作成準備	文献検索指導	
23・24	中間レポート作成準備	文献検索指導	
25・26	中間レポート作成準備	参考文献指導	
27・28	中間レポート作成準備	参考文献指導	
29・30	1年まとめ	中間報告（まとめ）	1年次の内容をまとめる
31・32	導入	修士論文提出スケジュールの確認	スケジュールを立てておく
33・34	修士論文作成準備	草稿報告	中間レポート作成で不足していたデータ、資料を収集し、関連する文献を検索する
35・36	修士論文作成準備	草稿報告	
37・38	修士論文作成準備	草稿報告	
39・40	修士論文作成準備	草稿報告	
41・42	修士論文作成準備	草稿報告	
43・44	修士論文作成準備	草稿報告	
45・46	修士論文作成準備	草稿報告	
47・48	修士論文作成準備	草稿報告	返却修士論文の修正
49・50	修士論文作成準備	形式確認	
51・52	修士論文返却	修士論文の修正	
53・54	修士論文発表準備	発表準備	修士論文の発表準備
55・56	修士論文発表準備	発表準備	
57・58	修士論文発表	プレゼンテーション・質疑応答	
59・60	2年まとめ	総まとめ	総まとめ